

令和6年度第5回小平市社会教育委員の会議要録

と き：令和6年12月12日（木）午前9時30分～午前11時05分

ところ：市役所5階 504会議室

1 出席者

小平市社会教育委員 8人

傍聴者 なし

2 内 容

<議題>

資料に基づき、事務局から説明を行った。

- (1) 第55回関東甲信越静社会教育研究大会 茨城大会について（報告）

<事務局報告>

各課・各館より、実施事業等について報告した。

【地域学習支援課】

- (1) 令和6年度青少年健全育成講演会について（報告）
- (2) 令和7年二十歳の集いについて
- (3) 第21回小平よさこいスクールダンスフェスティバル in 2025

【公民館】

- (1) 公民館主催イベント（10月、11月）について（報告）
- (2) 公民館主催イベント（1月）について

【図書館】

- (1) 東京文化財ウィーク 2024 講演会「鷹場と小平」について（報告）
- (2) 図書館主催イベント（10月、11月）について（報告）
- (3) 図書館主催イベント（12月～2月）について
- (4) 大沼図書館の臨時休館及び大沼公民館の一部利用休止について

<その他>

なし

3 議題及び事務局報告等についての意見・質疑応答

○委員 図書館について質問がある。資料No.8-1の②の報告で、職場体験の中学生にも読み聞かせをやってもらったとのことであるが、以前から定例的にやっていたことなのか、職場体験とスケジュールが重なったことから行ったのか。

○事務局 職場体験の中学生については、今回は日程的に重なったことから参加していただいた。今後も、職場体験期間中に図書館イベント等があれば、積極的に参加していただきたいと考えている。

○委員 図書館について質問がある。資料No.8-2の資料の⑥「図書館の本で紙ひこうきを作り」は、廃棄する本で紙ひこうきを作るのか。

○事務局 除籍をした本で紙飛行機を作っている。

○委員 2点報告がある。まず1点目は、資料No.2の青少年健全育成講演会に参加したことについて。

講師の話の中で、作詞は当時勤めていた学校の校長先生に頼んで、依頼した翌日には、もう机の上にできあがった歌詞が置かれていて、その歌詞を見て講師が一気に作曲をしたとの話であった。

その話を聞き、人との出会いのすばらしさを感じた。校長先生の強い思いと講師の強い思いが重なり、一日にして出来たと聞き取れた。それがこれまで引き継がれていることは、いい形両者の思いが結びついたことと受け止められ、非常に驚かされた。また、講演の内容が講師の生い立ちを順に追って話を進めていくものであったが、とてもお話が巧く、人柄の良さも感じられ話に引き込まれた。大変いい講演会であった。

また、講演会の中で、講師にピアノの弾き語りで歌っていただいた。また、講師のピアノの伴奏で、参加者全員が、歌詞カードを見ながら合唱をした。合唱したのは何十年ぶりであり、改めて合唱の力を感じた講演会であった。

2点目の報告は、資料No.6の大沼公民館まつりである。資料中段の4、説明内容の下欄に、日本ブラインドサッカー協会の記載がある。

この協会は、昭和病院の東隣にあるマルイのグラウンドで協会の合宿を行っており、そのつながりもあることから、大沼公民館ではブラインドサッカーの試合を観戦する講座が開かれている。講座の1回目は、ブラインドサッカーを学ぶ座学で、2回目は実際に内容であったと記憶している。偶然、この情報を知ったことから、関連して情報提供した。

○委員 資料2の青少年健全育成講演会の感想である。講演内容が合唱曲に関してであったので、小平第一中学校の合唱祭について話す。小平第一中学校では、美術の課題で毎年、自分の合唱祭で歌唱した歌について、その歌をイメージする絵を描く課題が出ている。その作品は、勤務していた福祉施設では、学校から預かり、施設内で展示していた。こどもたちが絵を描くために、歌の背景を調べていたことが分かった。自分自身も、歌それぞれに様々な背景があることを学んだ。ぜひ、今後も合唱曲にちなんだ講演会を行っていただくことを希望する。

○委員 おはなし工作会や紙ひこうきづくりなど、物づくりの体験はとても良いと思った。

まだ日本では、公共図書館で物づくりに取り組んでいるところは少ないと思う。今後、創造性や自由な発想を育む上で、公共図書館の担う重要な役割だと思っている。そこで、メーカースペースを具体的に組み込んでいく議論が行われているのか、もしくは、そのような取組を物づくりのイベントに入れていくような考えがあるのか伺いたい。

○事務局 図書館でのメーカースペースは、近年、広がってきている。例えば、3Dプリンターを入れるなどの取組がされていることは伺っている。

海外では、公民館のような施設がないことから、その機能を取り込み、図書館で様々な取組がされていると伺っている。

現在計画を進めている小川西町図書館は、公民館などと一体的な施設になることを予定している。メーカースペース的な機材を入れることは、計画としてはないが、今後検討されていくことになるのではないかと捉えている。

○委員 小平第三小学校でよさこいに携わっている。2月9日のよさこいのダンススクールフェスティバルについて補足して説明したい。このフェスティバルを主催する小平よさこいの会の会長は今年96歳になる。これまで台東区の小学校などで校長先生として勤務され、女性校長の第一人者である。小平市の小平第三小学校の校区に住んでいたことで、退職後は、小平市の教育委員を務めてきた。その関係で、小平よさこいの会長を務められてきた。先日開催された、小平よさこいの会の代表者会議では、会長を辞めると突然の発言があった。しかし、96歳まで元気に務められていることから、ぜひ、100歳まで頑張ってくださいとお願いをしている。今度のフェスティバルでは、会長のご挨拶もいただけたと思っている。

次に質問がある。資料5の津田公民館まつりについて。2日間の参加人数の合計が1,234人参加とある。館により参加人数にばらつきがある。津田公民館の参加人数が多い理由を伺いたい。

○事務局 津田公民館の参加人数が多い理由は、サークルの活動が非常に活発であり、サークルの登録数も非常に多いことが考えられる。他の分館と比較して、これまでも公民館まつりの参加人数は非常に多く、活発に活動している。

活動が活発に行われている理由は、地域性によるものか分からないが、津田公民館は非常に人気が高い館であり、ほぼ毎日部屋が埋まっている一番利用率の高い公民館である。そのような事情から、公民館まつりの参加人数や日常的な来館者数に反映しているとの認識である。

○委員 図書館が企画している事業は、美術館や博物館で企画するような意外性のあるものであり、どれも広がりがありおもしろいと感じた。

一つ質問がある。図書館での多彩な事業は、どのように企画しているのか伺いたい。

○事務局 企画に関しては、各図書館の職員が知恵を出しながら、その企画に関係する人などと交渉をして開催している。そのため、職員が幅広く情報収集を行い、取り組んでいる。

○委員 大学において、図書館は非常に重要な機関である。また、図書館長は、学部長と同程度の地位である。そのため、図書館には知の集積がある。そのような背景を図書館は持っていることから、図書館に勤務している職員は、情報収集に際し、アンテナを広く張っていることを感

じた。

○委員 一つ質問がある。これまでの報告があった図書館の企画も、公民館の企画も、とてもおもしろいと思った。そこで、市内の社会教育に関わる施設がそれぞれの特徴を生かして、お互いに連携し合うような仕組みが小平市にあるか伺いたい。例えば、テーマを決めて、そのテーマを基に、それぞれの施設の持ち味を生かした企画を出し合うことが行われると、多様な人を豊かにすることができると思う。そのような連携はあるのか。

○事務局 公民館は、中央、分館と合わせて11館ある。それぞれの館の個性を出してみる、もしくは館が連携して事業を一緒に行ってみる、そのようなことを、今、模索している。例えば、水彩画のサークルがある分館と分館とが同時に展示会を開催する、もしくは交互に行う。また、エリアが近い公民館が連携し、大学と協力して取組を行うことなどを始めている。委員からの指摘を前向きに受け止め、実現できるよう、取り組んでいく

○事務局 図書館は、さまざまな事業に取り組む中で、公民館と連携をする部分がある。公民館との複合施設である仲町図書館以外の図書館についても、公民館事業に関係する本を図書館で用意するなどの連携を図っている。

また、公民館以外の連携については、資料No.7の「鷹場と小平」講演会は、東京都教育庁が主催する企画事業と連携している。

○委員 資料No.3の二十歳の集いについて質問がある。この事業の特色は、実行委員会形式で実施していることだと聞いている。

実行委員については、各中学校の学年単位で形成していると伺っている。中学校の校長あるいは副校長は、実行委員会形式であることを認識し、生徒へ指導等をしているのか。

実行委員になる青年は、地域の中核的な人材になる可能性があると考えられる。そのため、これから小平の各地域を背負って立つ人に育ってほしいとの希望もあり伺った。

また、過去に実行委員を担った人が、青少年委員をやりたいと希望している事例や、青少年委員で活動しているなどの事例があるといいと思った。将来に向けての意識づけとして、各中学校に、二十歳の集いが実行委員会形式で行っていること、中学校卒業前までに、実行委員になることの心構えなどを指導しているのか伺いたい。

○事務局 二十歳の集いの実行委員への意識づけは、現時点では行っていない。市報等で募集を行い、希望して参加している人が主である。その中には、地域の中で今後活躍していただける人材も含まれていると考えられる。今後は、地域の中で活躍していただけることを期待している意識づけなど、何かできればと思うが、現時点では、具体的な展開についてはなく、これから整理して考えていきたい。

○委員 小平市は公民館の小平と言われている。小平市は公民館活動が伝統的に有名であるが、中学校についても、地域人材の育成について、公民館活動と同様に発展していくことを期待して伺った。

○委員 私の三人の娘のうち、二人が、二十歳の集いの実行委員をさせていただいた。そのこともあり、過去に実行委員をした方で、コダレンジャーに入っている方がいることを聞いている。

○事務局 二十歳の集いの初代の実行委員の一人が、コダレンジャーに入っている。

○事務局 先ほど委員から紹介いただいたブラインドサッカーの件について、追加の情報提供がある。12月14日、午後2時から、日本代表とオーストラリア代表の試合を公民館の講座で見学する。まだ空きがあるので、参加希望があれば、大沼公民館へ連絡をお願いしたい。

○事務局 中学生の職場体験は本当に貴重な機会である。職場体験の中学生が作ったクリスマスカードを持参してきた。このカードは花小金井図書館で、スペシャルお話し会のクリスマスのためにカードを準備していたときに、職場体験で来ていた中学生たちに手伝ってもらったものである。中学生は、カードをととても喜んで作っていたとの話であった。貴重な機会だと思う。継続していきたいと思う。

○委員 青少年のリーダー育成とリーダー養成講座について、自分が考えていることを伝えたい。今回配付された資料に、小平市青少年委員だより『はつらつ』がある。資料には日程が記載してある。それを見て思ったことを述べたい。

今回、考えるきっかけの一つとして、工藤勇一著「15歳からのリーダー養成講座」を読んだ。この本は、結果を出せるリーダーになるための基本について書かれている。リーダーとしてチームをいかにまとめるか、リーダーシップとは何か。チーム内での対立を解決する対話の方法などに触れられている。この本で描かれている目指すリーダー像と、現在実施されている講座でのリーダー像とは違う印象を受けた。

また、月刊誌の『社会教育』で、高校生によって設立された松江市のNPO法人の記事を読んだ。この法人は中高生が主体となり、青少年の健全な成長や地域社会のつながりの活性化に寄与することを目的として、社会貢献活動を行っている。そして、この法人は、松江市内の高等学校や高等専門学校の生徒たちが参加し活動している団体である。このようなリーダーの形があることを改めて知った。

次に、今回出席した、関東甲信越社会教育研究大会第三分科会「若者の主体的活動の促進」で水戸市の事例発表があった。水戸市でも、青少年が主体的に地域のために活動していることを知った。

最後に、小平市の公民館の事業である。高校生の事業企画の委員の活動では、青少年が自分たちで主体的に講座を考えて運営する取組が行われていることを報告いただいている。

これらの活動を知ること、青少年リーダー養成講座は、このままの活動を続けることでよいのだろうかと考えた。

キャンプを行うこと、レクリエーションでじゃんけんゲームをやるなどが、全く要らないとは考えていない。また、指導者として携わっている青少年委員の皆さんが、講座参加者に対して丁寧支援し、尽力いただいていることは、『はつらつ』の記載内容から伝わってきた。

しかし、シニアのリーダー養成、特に高校生については、その内容や在り方について見直しが必要ではないかと考えている。

水戸大会が終わった後、随行していた事務局職員に自分が考えていることを伝えた。事務局職員から、自分が考えていることを課題と認識している職員もいることを知った。そこで、11月

17日に、シニアリーダーの養成講座に参加した。

実際、活動内容を拝見すると、課題があると思った。そこで、これまで考えてきたことをこの場で発言した。

リーダー像については、支援する人たちそれぞれに目指すリーダー像があると思う。しかし、デイキャンプなどのイベントだけで、リーダー養成講座を行うことはもったいないと思う。現に活躍していて、これからの時代を背負っていただく、未来の大人、その方たちに学んでいく内容も、取組として入れていただきたいと思います。

○事務局 11月17日の青少年リーダー養成講座に参加していただき感謝している。実際に講座を見ていただいた感想、意見が、今後の事業の見直しのよいきっかけになると思う。

小平市の青少年リーダー養成講座は、青少年委員の企画運営で進めている。最近の社会情勢への対処、例えば、コロナ禍明けの、人と人とのつながりが希薄になってしまっている状態から、この講座では、どのように進めることで、つながりを戻していくか。また、南海トラフ地震臨時情報などが発表される中、この講座でどのように受講生の安全を確保していくか。そのようなことを含め、この講座を今後どのように続けていくかについて、毎月開催される青少年委員定例会や、子ども育成部会と企画・広報部会の、それぞれの部会長を含めての会議、また会長、副会長、総務から成る三役との会議等で、講座の在り方についての検討を進めている。

今回いただいた意見等も踏まえ、今後も講座の見直し等について、引き続き青少年委員と進めていく。

○委員 大学生との関わりについて報告したい。8月3日、灯りまつりが開催された。このイベントについては、学校関係者や地域の方が、実行委員を立ち上げて行っていたとの認識であった。今回、たまたま、たけのこ公園で小平第三小学校が展示させていただいたことがきっかけとなり、反省会に参加させていただいた。反省会では、今年から武蔵野美術大学の学生たちが、実行委員をバトンタッチされていた。

また、検討会など、プレゼンも各学生さんがしているのを見て、尽力していただいていることに感動した。大学生で取り組んでくださっている活動もあることを知っていただきたく、報告した。

○委員 探求の授業について報告がある。七小地区にある錦城高校の先生から、探究の授業として、地域に何か学ぶことはないかと、学校から青少対へ投げかけがあった。

探求の授業について深く理解していないが、学校からの説明では、こどもたちが、課題を見つけ、その課題の解決のプロセスを勉強することであった。高校生からのアプローチがこのような形であったことから、他の学校もあるのかもしれない。声かけをすることで、答えが返ってくる可能性があると思い、発言した。

○委員 探求の活動は、各校で様々な取組をされている。恐らく、文部科学省から、探求の活動についての通知が示されていて、それぞれ、学校の運営で決めているのではないかと。

○事務局 錦城高校は、小平第十一小学校に関わっている。十一小の青少対まつりのときは、おまつり自体に高校生が参加していた。取材した内容で小平をテーマに映画を作るとか、鈴木遺跡

など、小平のことを調べていることを話していた。そういうつながりもいいと思っている。

○委員 科目名は思い出せないが、高校の科目では社会に出て活動して、社会との関わりを学ぶ科目がある。ちなみに、都立多摩科学技術高校は、私どもがやっている科学の祭典にボランティアとして運営に関わっている。活動することで単位を取得する。しかし、丸一日活動に関わらないと単位が出ない。このような活動は、学校に様々な取組があると思う。

○委員 青少年リーダー養成講座について。ジュニアリーダー養成講座に、こどもが参加している。ジュニアリーダー養成に参加して、本当に伸び伸びと楽しく過ごしている。シニアリーダー養成講座になると、講座への関わり方も変わると思うが、厳しくなるので次には行きたくないとは思っている。同じ学校のこどもが参加している訳ではないが参加し続けている理由は、青少年委員のみなさんが、バランスを取りながら運営しているから、楽しんで参加できているのだと思う。先日実施されたクリスマス会のときは、活動の様子を少しだけ見た。とても楽しそうに過ごしていた。このように楽しく継続できているのは、本当に委員の皆さんのおかげだなと日々思っている。シニアリーダー養成講座のプログラムの在り方は、これまでの意見でも、様々な絡め方が今後もできる可能性を感じた。ぜひ、社会教育委員と青少年委員とが、一緒に、青少年リーダー養成講座などリーダーの養成について、話ができる機会があってもいいと思う。